

【2026 年 10 月 6 日】

送付枚数 本票含め 2 枚

報道機関 各位

歯科口腔外科領域で山口県初！

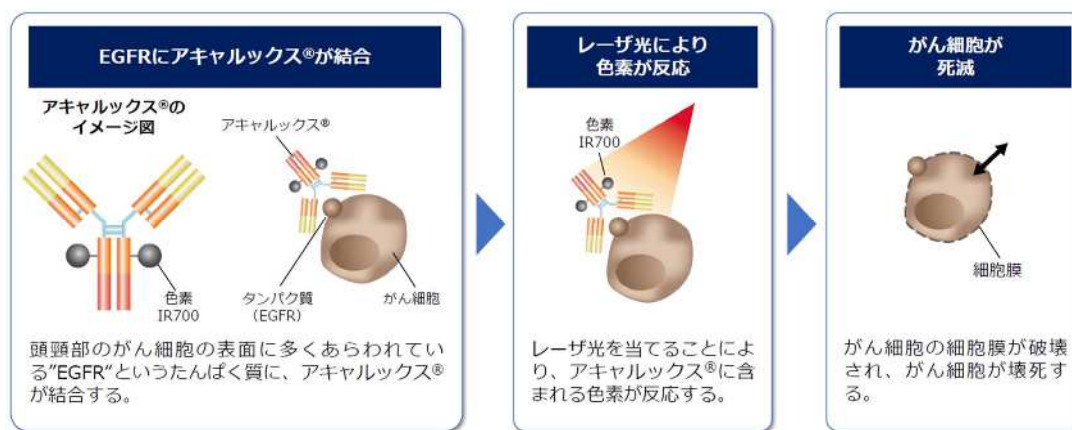
山口大学医学部附属病院で新たな口腔がん治療「光免疫療法」を開始

山口大学医学部附属病院では、山口県内で初めて、歯科口腔外科領域において、新たながんの治療法である「光免疫療法（アルミノックス治療）」を開始しましたのでお知らせいたします。

「光免疫療法（アルミノックス治療）」は、薬剤とレーザ光照射を組み合わせ、がん細胞のみをピンポイントで狙い撃ちして破壊する、新しいがんの治療法です。現在、頭頸部領域（耳、鼻、鼻腔、唇、口腔、喉等）において手術による切除が不能な局所がん、または放射線治療の限界を超える再発がん、多発性がんなどで医学的に適応と判断された場合に実施可能とされています。

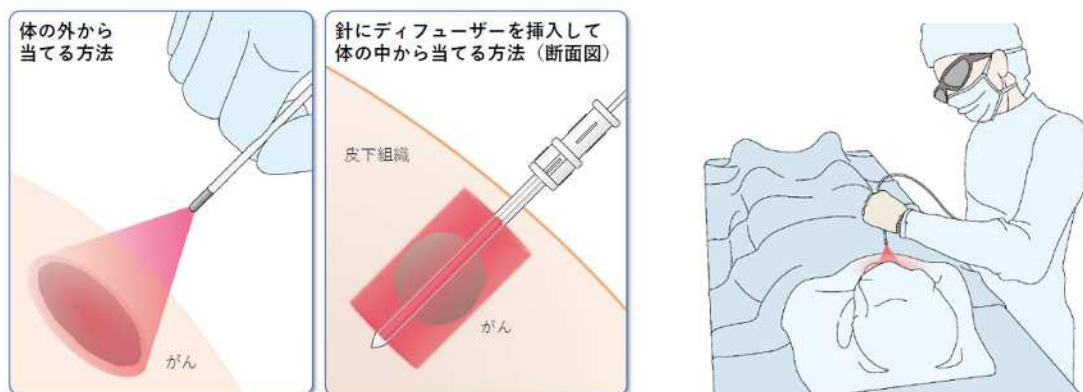
本治療の歯科口腔外科領域における施行には、安全性の確保を目的とした設定要件を満たした医療機関で、口腔がん専門医の資格を有する医師が在籍していることが条件であり、山口県内では唯一、本院の歯科口腔外科が施行可能施設として認定されています。

本治療に使用する薬剤「アキラルックス®」は、口腔がん細胞の表面にほぼ 100%発現する上皮成長因子受容体（EGFR）に結合する抗体に、光感受性物質である色素 IR700 を結合させた光感受性物質複合体です。この薬剤に 690nm の特殊なレーザ光を照射することにより、本来親水性が高い色素 IR700 が強い疎水性へと急激に変化し、凝集します。この物性変化のストレスにより、がん細胞の細胞膜が破壊されて壊死に至ると考えられます。



模式図（提供：楽天メディカル株式会社）

本治療に要する日数は 2 日間で、初日にアキラルックス 640 mg/m²（体表面積）を 2 時間以上かけて点滴静注し、薬剤を病巣部位にいきわたらせます。20～28 時間が経過した 2 日目に全身麻酔で病巣部位にレーザ光を照射します。



照射手法の比較（体外照射と体内照射）（提供：楽天メディカル株式会社）

治療そのものは2日間ですが、アキラルックスの投与後は1週間程度、太陽光を避ける生活が求められます。太陽光にはレーザ光と同じ690nmの波長の光が含まれるため、治療後に太陽光を浴びると、色素IR700が光化学反応を起こし、喉が腫れて気道閉塞を起こしたり、全身の皮膚が炎症を起こしたりするリスクがあるためです。これらを回避するため、治療後は採光を管理した病室にて1週間程度入院していただきます。なお、690nmのレーザ光そのものに有害性・危険性はなく、また、治療後に蛍光灯などの室内光を浴びることは問題ありません。

本治療には保険が適用され、最大4回まで実施可能です。高額療養費制度も適用されます。

令和8年7月、本院の歯科口腔外科において、山口県内で初めて口腔がん「光免疫療法（アルミノックス治療）」を施行しました。治療から日が浅いため確定診断には至りませんが、現在のところ病変は消失したものと考えられます。

本治療は、すでに手術による切除や放射線治療などを終え、その後の治療の選択肢が限られる患者さんに対する新たな治療法として期待されます。

※アキラルックスは、楽天メディカル株式会社の登録商標です。

【お問い合わせ先】

山口大学医学部附属病院 広報戦略センター
〒755-8505 山口県宇部市南小串 1-1-1
TEL 0836-85-3036
FAX 0836-22-2113
E-mail me268@yamaguchi-u.ac.jp

発信者 国立大学法人山口大学
総務部総務課広報室
〒753-8511 山口市吉田 1677-1
TEL 083-933-5007
FAX 083-933-5013
E-mail sh011@yamaguchi-u.ac.jp